「海幹校戦略研究」増刊（シンポジウム特集号）への寄稿

日本船主協会
保坂　均

最初に、海洋安全保障シンポジウムにおいて、海運業界の立場からお話する機会を与えていただいたことに対して、防衛省並びに海洋政策研究財団を始めとする関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

さて、シンポジウムのテーマである「海洋安全保障」ですが、大変幅広いテーマであり、プレゼンの構成を考える際に、どこから手を付けて良いのか戸惑いもありました。特に、最近の情勢からは、殆どの人が海洋安全保障＝尖閣問題といったイメージを持たれるのではないかと想像します。

一方で、海運業界としての海洋安全保障は、船舶の航行海域すなわち世界の全ての海域における船舶の安全といった観点から考えざるを得ず、結果的に話の内容が拡散することになりましたが、もう少し焦点を絞ってお話しすべきだったと反省しています。

ただ、「海運」というものに対する日本人一般の理解は、残念ながら限りなくゼロに近いのではないかと思われます。日本の産業、日本人の生活に必要な物資を運ぶという重要な役割は当然あるにしても、「運ぶ」という行為が形として残らない以上、一般の人達が日常生活の中で船舶なり海運を身近に意識することを期待するのは無理があるかも知れません。それ故、そもそも海運とは何か？から話を始めないことには、全く理解されないのではないか、という強い不安もありました。

言い訳じみてきましたが、「海洋安全保障」とは直接関係の無いところで時間を費やし、持ち時間を大幅に超過して、パネラーの皆様や司会の秋山様にご迷惑をお掛けすることになってしまい、大変申し訳なく思っております。

最後になりますが、我々海運業界にとって「航海自由の原則」に則り、船舶が安全に航行できることが何にも増して重要です。今も遠く日本を離れたソマリア沖・アデン湾において海賊対処部隊による商船の護衛を継続していただき、感謝に堪えません。これからも日本近海はもとより世界中の海での重要な任務に活躍されるよう祈念しております。